

祝文

周諱璜字伯謙

從事君之元嗣

戴闡於孝友溫

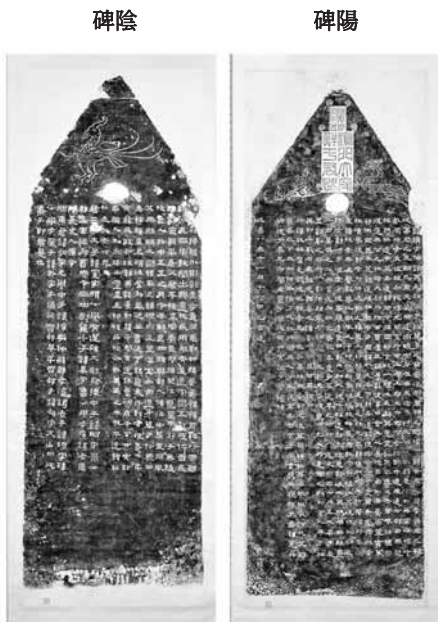
綏朔狄邊分字文

周諱璜字伯謙
從事君之元嗣
戴闡於孝友溫
綏朔狄邊分字文

「落ち穂拾い記」^{⑦9}

「鮮于璜碑・初拓本」後漢・延熹8年(165年)

図① 鮮于璜碑



図② 碑額



図③ 張遷碑(部分)



図④



毎年4回ほど北京から西安、上海、香港と回りながら書の資料を求めていた。30数年前であろうか、顔見知りになった北京の古書店の女性の経理から、この拓本に興味があるかとして、二本軸装の拓本を示された。鮮于璜碑の整拓本であった。珍しい拓でありすぐに譲り受けた。この碑は中国の解放後に出土した非常に有名な漢碑であり、書法に優れ、碑文の保存状態もよく、漢隸の名品として、早くに香港の書譜出版社(1979年刊)から刊行され、当時からその原寸大の影印本を所蔵していた。1973年に中国天津市の武清県高村郷より出土し、天津市歴史博物館に所蔵されている。家蔵拓本は、この碑の整拓本であり、碑陽・碑陰の二軸に装されている(図①)。拓紙からの実側では、高さが238cm、幅が上部は80cmで、下部が83cm。「鮮于璜碑」は、延熹8年(165年)の刻あり、碑額には、直線を用いた篆書で「漢故雁門太守鮮于君碑」と鋭く陽刻で刻されている。碑額の左右に竜・虎(図②)が、その裏の碑陰には、朱雀が線刻されている。碑額下には直径11cmの円い穴(碑穿)がある。碑陽、碑陰共に銘文が刻されている。碑の上部が三角状であり、古くから知られる『北海相景君碑』や『白石神君碑』などの碑形に近い。碑陽は17行35字、碑陰は15行25字宛に野線が刻されて、その中に文字が刻されている。碑文は、鮮于璜なる人物の事蹟を記す。碑文の書体は、漢の八分隸に属するが、『礼器碑』や『乙瑛碑』のような流麗さはなく、字画が太く、雄強で、重厚な趣を具えた書風であり、漢末の『張遷碑』(図③)に近い。新出土のこうした優れた碑刻は、取拓されることも少なく、市中に出回ること、あまり多くない。入手した拓本の下部には、発見後収蔵された天津市歴史博物館の「天津市歴史博物館蔵」の朱文印(図④)がそれぞれに捺されている。当時の博物館からの贈呈拓本であろう。右頁の主図版には、碑陽の巻頭部分をほぼ原寸で示した。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

公益財団法人 令和8・9年度書道芸術院新役員 (○は新任)

顧問	大野祥雲	同	平川峰子	同	鈴木英晴
同	○後藤大峰	同	○広瀬舟雲	同	中尾琴麗
同	辻元大雲	同	山口仙草	同	松浦錦扇
理事長	下谷洋子	監事	○前田龍雲	同	三浦鄭街
常務理事	小竹石雲	同	○山崎亮	同	宮崎芳玉
同	千葉蒼玄	評議員	朝倉希代子	同	柳橋香仙
理事	○青木丈	同	石川三峰	同	渡辺柱雲
同	○大平邑峰	同	○一條紅蕭	参事	○飯沼恵鳳
同	川島舟錦	同	岩垣若翠	同	○稻垣小燕
同	○倉林紅瑤	同	及川豊流	同	○北村白琉
同	高田幽玄	同	大嶋珀曄	同	○小林琴水
同	○武山櫻子	同	○乙倉翠芳	同	○坂本素雪
同	種谷萬城	同	○柄山明珠	同	○津田海仙
同	○田村鄭雲	同	木村笙園	事務局長 大内熒軒 〈他に参事13名〉	
同	名越蒼竹	同	九條純代		
同	○西川翠嵐	同	工藤永翠		
同	半田藤扇	同	小島孝予		

書のひろば

理事長 下谷 洋子

第60回記念高野山競書大会

審査会開催

今年60回の記念となった高野山競書大会審査会は、5月28・29・30日と、東京高輪の高野山東京別院にて行われました。出品点数は今回も減少してしまいましたが、それでも学生・一般合わせて10万点を超えました。

今回の審査委員長は下谷で、副委員長には本院から種谷萬城先生、大会運営委員に千葉蒼玄先生、最終審査は、本院から小林琴水・種谷萬城先生と私が当たりました。

今回は記念展のため記念賞が設けられました。上位賞は7月31〜8月16日まで、総本山金剛峯寺に展示され、続いて31日には同会場にて表彰式が行われます。関東地区優秀作品の展示は、8月28〜30日まで高野山東京別院にて行います。高野山競書大会は、特に学生部の作品が圧巻で、高校生などは一般も敵わないほどの力作が集まります。本院の皆さんのさらなるご協力をお願い致します。



(公社)全日本書道連盟 令和8年度総会開催

6月4日上野精養軒にて令和8年度総会が開かれました。

議案

1. 令和7年度事業報告ならびに決算の承認

2. 役員の報酬等ならびに費用に関する規程改正について

総会終了後は書写書道教育講演会が開催されました。

演題

「地域と連携して書道を伝える」

〜学習指導要領の方向性と部活動改革〜

講師

文化庁参事官(芸術文化担当) 学校芸術教育室 堀内昭彦室長

焼津市書学クラブ 萩崎天峯代表

コーディネーター

日本国際教育支援協会理事長・元文部科学審議官・全日本書道連盟理事 藤江陽子

主に学校の部活動の方向性と、焼津市における事例を紹介しながら、地域との連携の必要性が語られました。

学校教育の中で、部活動が難しい状況の中で、地域の適切な指導者とながりがながら良質な書写指導を展開していくというもので、既に各地方で実践されているとか。ただ、運営の財源や指導者の問題など容易でない面も多々あるようです。

令和8年度(公財)書道芸術院 定時評議員会

6月6日、東京文芸共和会館にて令和8年度の定時評議員会が開催されました。

議事

1. 令和7年度(公財)書道芸術院収支決算の承認について

2. 理事の選任について

3. 監事の選任について

4. 評議員の選任について

その他の報告

(詳細は院報に掲載)

一般財団法人毎日書道会 令和8年度第2回理事会

6月15日、KKRホテル東京にて今年度第2回理事会が開催されました。

1号議案 理事長及び専務理事の業務執行状況報告の件
2号議案 理事選任報告の件
3号議案 専務理事選任の件
4号議案 監事選任報告の件
5号議案 評議員選任報告の件
6号議案 総務・顧問委嘱報告の件
7号議案 毎日書道顕彰贈呈の件
8号議案 令和8年度事業に関する件

その他
改選に伴い新しく選任された役員(書道関係)

新理事 安藤豊彰・稲村龍谷・北野
攝山・鈴木響泉・三岡昭博

新監事 大森 哲

新評議員 飯田桂子・池谷天外・生駒蘭嵩・田邊栖鳳

新総務 猪股眠丁・大多和玉祥・鷹野理芳・中村篤志

毎日書道会 専務理事 三岡昭博
事務局 中村篤志

令和8年度(公財)書道芸術院 通常理事会

6月21日、書道芸術院事務所にて令和8年度の通常理事会が開催されました。新理事・監事による初めての理事会です。

議事

1) 理事長の選任について

2) 常務理事の選任について

3) 参事の選任について

4) 総局長及び支局長の推薦について

審議事項

① 第80回記念書道芸術院展関係人事について
② 運営委員長、実行委員長等について

報告事項

① 第77回毎日書道展出品状況について
② 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

競書出品基礎基本講座(臨時掲載)

編集部

「漢字書基礎基本講座」はしばらくの間、休載となります。
本誌創刊の頃の写真版作品と短評を転載します。作品制作の参考にし
てください。短評は改変、または省略や縮約している場合があります。



S32.12月 一般優級

線に熱気を含み、心の歓喜を覚
える。構成もよく、紙面が緊迫し
ている。



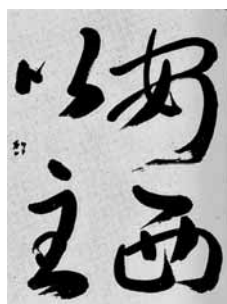
S33.1月 一般1級

心のおもむくままに筆が動いて
いる、という作品である。特にこ
の作品が成功している根源は、線
の持つ広がりであると思う。こう
した傾向のものは、線が薄っぺら
になりがちであるが、この作は厚
みを持っているので、それが支え
となって広がりが生まれている。
その広がりがまた、全体の力動感
の支えにもなっているのだ。



S33.2月 随意特選

木簡の臨書作品。原本を自由に
主観的にとらえ、ボリュームと力
動感がよいコンポジションとなっ
ている。誰かの目を通した臨書で
はなく、文字性にとらわれる不自
由さもない。近代的に構築された
未来が楽しめる作品だ。



S33.5月 随意特選

濃墨を使ってこれほどまでに筆
を活躍させることは容易ではない。
柔らかな雰囲気、自然な姿態から
静かな安心した境地が生じる。余
白美と余裕を感じさせる作品。

基礎基本講座

ペン字基礎基本講座(6)

川村美泉

ペン字の指導をしていると、「ひらがなが書けません」「連綿が難しい
です」の声をよく聞きます。文章で最も使用頻度が高いひらがなに苦手
意識を持つていては、頭を抱えるのもわかるような気がします。

日本では、自分たちの言葉を文字で表すためにひらがなが生まれまし
た。中国から漢字が伝わり、それを日本の表記のために表音文字である
かなを作り上げたのです。皆さんご存じの通りひらがなの字源は漢字で、
その草書体をさらに簡略化して生まれました。「ひらがなが難しい」と
思われる方は、このことを意識してみること、美しい字形に近づくの
ではないでしょうか。参考までにひらがなの字源を記します。

【以】ろ【呂】は【波】に【仁】ほ【保】へ【部】と【止】ち
【利】ぬ【奴】る【留】を【遠】わ【和】か【加】よ【与】た【太】
【礼】そ【曾】つ【川】ね【弥】な【奈】ら【良】む【武】う【宇】
【為】の【乃】お【於】く【久】や【也】ま【未】け【計】ふ【不】
【己】え【衣】て【天】あ【安】さ【左】き【幾】ゆ【由】め【女】
【美】し【之】ゑ【恵】ひ【比】も【毛】せ【世】す【寸】ん【无】
字源からどのように簡略化されてひらがなになっていったか。なる
ほど！と手を打ちたくなるものもあれば、想像がつかないものもある
でしょうが、ぜひ字源を意識してみよう。そして、蓬萊切・高野切
古今集・粘葉本和漢朗詠集などの古筆を鑑賞してください。美しいひら
がなの姿がそこにあります。

ひらがなは、「曲線」「折れ」「結び」に注意して書きましょう。そし
て、自分の運筆のリズムをつかむことです。イチ、ニ、サン、シ、と小
気味よいリズムを刻みましょう。

「曲線」

右回り、左回り
ゆっくり

「折れ」

角々とメリハリをつける

「結び」

流しすぎず方向が変わる部分を意識する

書道芸術院

令和の群像 (2026)



第58回竹扇書展「大海」

高橋 燦 扇書



高橋 燦 扇 (大阪)

「書は、人生」

20代の時、勤務先の上司が部下の私達に感受性を強く持って欲しいと話しておられた言葉を記憶しております。私は今、日々の生活の中で多くを感じ、発想し、書に反映させ書作をしています。若い時に聞いた「感受性を豊かに」を大切にしているのだと思います。

27歳2月に竹扇会小伏小扇先生の書道教室に入門致しました。競書出品を始めたのですが、課題が北魏書でした。素人の私にはとても難しく専門的な書、大きな壁です。困りました。2月、3月と北魏書が終わり、安堵し次へ進むことができました。今日では、古典を学ぶ大切さに気づき、北魏書は、力強い書であり、線の弱い私の勉強に欠かせない課題です。故・小伏竹村先生が厳しくおっしゃっておられたのは、「線や。線が細く弱ければ主義之、黄庭堅は書けない。」

運筆する筆遣い、スピード、突く、引く、捻る等、線質は、変わっていくでしょう。

書き手の私が未熟ゆえ、ご指導に應えることが思うようにいきません。書くことにより、気づきがあります。これからも臨書し成長したい

と思っています。

大字書部には、墨色の勉強も必須で、最近の夏は猛暑で、部屋を冷やすと淡墨がうまくいきません。昨年は、冷房をつけず書作しました。熱中症、孤独死との戦いです(笑)。

大字書部は、運筆の線、造形も学ばなければいけません。師、小伏小扇先生の線の強さ、センスの良さは憧れで、越えられないです。

20代、30代と価値観が変わり歳を重ねていく楽しみもあります。未熟な私でもこれからの10年、20年と思考の変化に柔軟に対応して、今まで培ってきたことを生かした作品を発表できるように、令和の時代を生き抜きたく精進してまいります。

最後に私の夢を記します。それは書道教室に通ってくる子どもを育てることです。筆を手にしたことの無い子に書きの喜びを分かちたい。私も子ども達の頃に苦労しても書けなかった経験、それを生かし伝えたいのです。以前、ダウン症の女の子との出逢いがありました。その頃の私は、どのように伝えられるのかと言葉探しばかりしておりしました。今では塾生の思いに寄り添い、子どもたちの役に立てればと思っております。教えているつもりが私が学んでいるのでしょね。「教えつ学びつ」です。

礼器碑（後漢156年）①

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（A大作の部 毎日展覧会員・会費サイズ以内、2×6尺、紙も可）
（B小品の部 半切以上半切以内、金紙以外も可）（A・B横書き）
当該古典の左記掲載部分以外も可。

※掲載図版80%縮小（原寸にするには125%拡大）



極之日。魯相／河南京韓君。／追惟大古。華

（三井記念美術館蔵）

〔解説〕後漢を代表する隷書

の名碑で、乙瑛碑などとともに山東省曲阜市の孔廟碑林に現存する。165×74cm。碑陽は36字で16行。碑陰は3段、各17行。碑側左は3段、各4行。碑側右は4段、各4行。

本文の内容は、魯の大臣の韓勅（字は叔節）が孔子廟とその祭器を修理・修造して礼学を復興したこと、孔子の親族であった顔氏と并官氏の子孫に対して賦税を免除する特典を与えたことを顕彰するもので、当時流行した識緯思想（儒学と陰陽五行説が合体し、一種の未来予知を行う試み）も盛り込まれている。

碑陰と碑側は、建碑への寄付金の芳名簿であるが、書風にかなりの相違がある。清代の王澐は「五節八変」説を、逆に翁方綱は複数（7人）による書写を唱えたが、確定を見ない。（編集部）

古筆鑑賞

268

寛平御時后宮歌合
(伝宗尊親王筆)
①

〈よみ〉

左／むめのはな^者なる^支きかならでうつろは^可／ゆ
きふりやまぬはるとこそみめ^所
右／はるのひにかすみわけつくとふかりの／み^{不可利}
えみく^須えずみくもかくれゆく^{久毛可久}

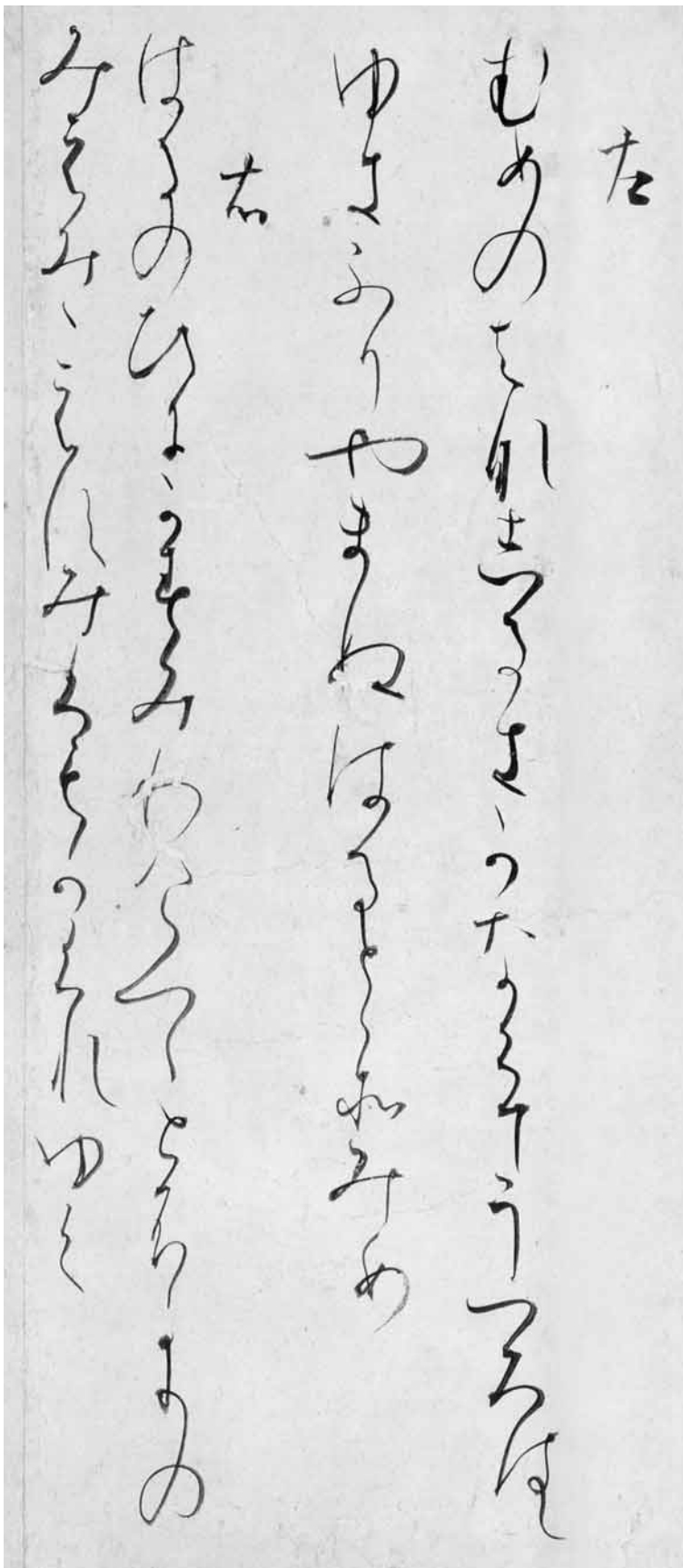
〔解説〕この古筆は東京国立博物館が所蔵する卷子本で国宝に指定されている。宇多天皇(867～931)の母后である班子女王主催の歌合という意味であり、四季と恋の歌が計200首詠まれている。本作は清書本ではなく草稿本の写しと考えられ、13首が欠損している。

本来、歌合は歌人を左右のチームに分けて同じテーマの歌を披露させて優劣を競うという晴れの行事であるが、この時は行事は開催されず、名歌を歌合の形式に則って編集し直したものの(撰歌台^{せんかだい}という)である。高野切と同時代(11世紀中頃)の優品である。(編集部)

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付も可。
半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
A 大作の部Ⅱ毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B 小品の部Ⅱ半切Ⅱ以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。▽



東京国立博物館蔵

※掲載図版90%縮小(原寸にするには112%拡大)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

漢字規定 初段以上 【8月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

名越蒼竹選書

習い方解説 (4)

名越蒼竹

宿麥連雲

〔四言句〕

(宿^{しゆく}麥^{ばく}雲^{うん}に連なる)

実りを迎えた麦畑が雲に連なるように広がっている。

篆書体から隸書体への移行期に見られる帛書の書風で書きました。金属や石に残された文字は篆書にしろ隸書にしろ用意周到に形を整えて残されたものが多いですが、肉筆で残された帛書や木簡には卒意の書としての自由さを感じるものが多いようです、

ただ帛書は元となる書体(篆書か隸書か)と、書かれた材料の違いで、一般に木簡とは字形や書風が異なっています。しかし字粒は小さくても大らかで伸びやかな特徴は双方に見られ、帛書では縦方向の強調画が目立ちます。細心と大胆を併せもって学ぶとよいでしょう。



宿麥連雲

よみ (宿^{しゆく}麥^{ばく}雲^{うん}に連なる)

書体Ⅱ自由

漢字規定 秀級以下 【8月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

前田龍雲選書

習い方解説 (1)

前田龍雲

溫厚和平
(溫厚和平)
〔四字熟語〕

穏やかで優しい性格を持ち、人との関係を大切にする姿勢のこと。

和平の精神とは、争いや対立を避け、協力や理解を促進することを意味します。昨今の世界情勢はいかがなものでしょうか。早く安寧が来ればと思います。

中唐の大家である顔真卿が書いた顔氏家廟碑や自書告身帖などの楷書を参考に書いてみました。顔真卿の楷書は明朝体活字を作成する際、参考にされたと言われています。字形はふっくらした向勢で、起筆・終筆・転折・波法に特徴があります。

穏やかな気持ちで、外柔内剛の線質を心がけ、線の途中にじんわりと力を込めて伸び伸び書いてみました。

筆は硬めの羊毛を使用しました。

溫厚和平

龍雲書

溫厚和平

よみ (溫厚和平)

書体Ⅱ楷書に限る

かな規定 初段以上 【8月15日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

下谷 洋子 選書

習い方解説 (1)

下谷 洋子

掬^{むす}ぶ手に涼^{すず}しき影^{かげ}を慕^もふかな
清水^{しみづ}に宿^{やど}る夏^{なつ}の夜^よの月^{つき}

〔西行「山家集」〕

手ですくいあげる清水に夏の夜の
月が宿って、涼やかな光がきらめ
く。何と慕わしいことだろう。

かな表現は実に多彩です。構成だ
けでも行書き、さまざまな散らし書
きがあります。その上、変体がなも
多種多様なため創作へのハードルは
かなり高くなります。古筆を学んで
も、古筆から何を学ぶかが解らない
と役立ちません。線の変化や連綿と、
何かに絞って探るのも大切です。

また、小字がなは流麗でソフトな
イメージがありますが、転折から繰
り広げられる躍動したリズムがその
作品の生彩感を生み出します。

手本を倣うだけでなく、自分のど
こが足りないかを知り得てこそ次の
一歩につながります。

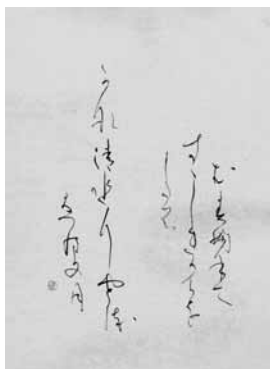
よみ方 掬(むす)ぶ手に(二)涼(春)しき(支)影(可遣)を(越)慕(志多)ふ(不)か(可)な(奈)

清水(し三徒)に(尔)宿(やど)る夏の(能)夜(よ)の月

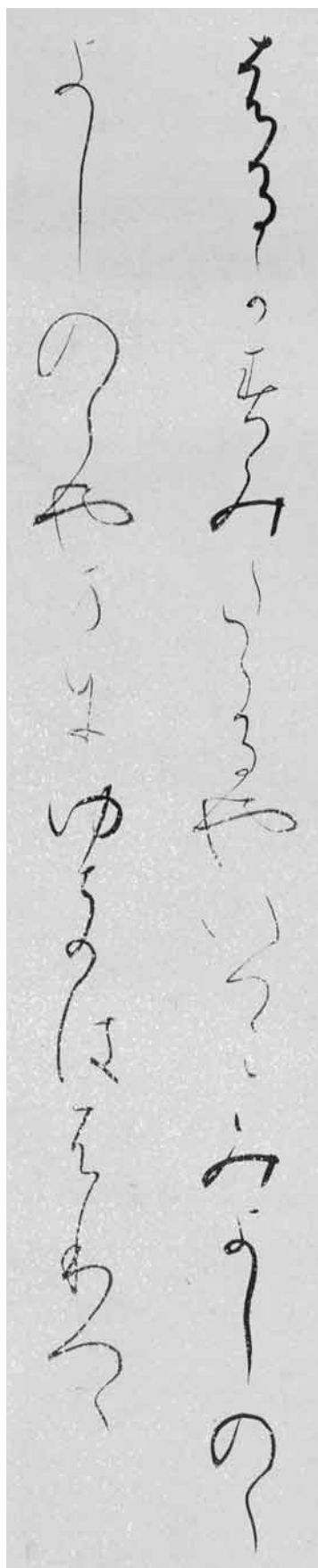
創作

* 料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切って下さい。

〈参考〉



かな規定 秀級以下 【8月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。高野切第一種 (掲載写真原寸)

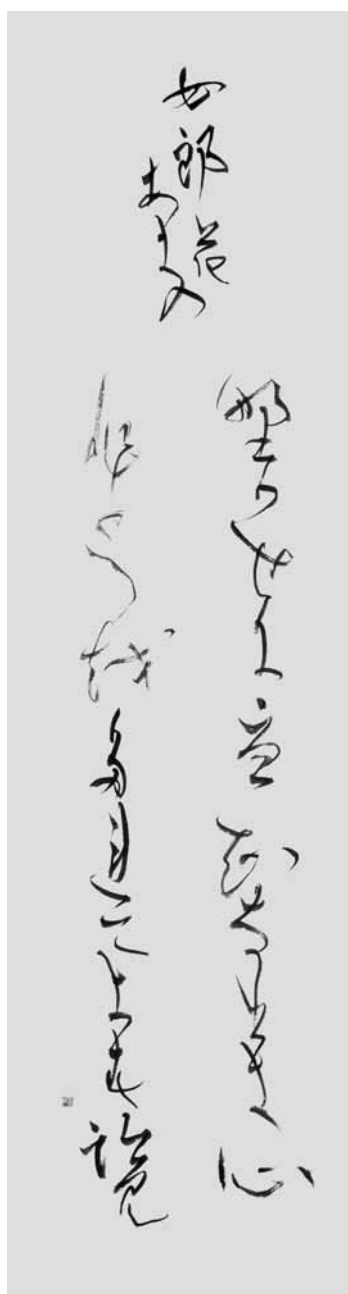


よみ方 はる^者がすみ^可た^多るやいづこみよしの、
よしのゝやまにゆきはふりつゝ

歌意 春霞が立ったというのは、いったいどこでしょう。(私の住んでいる吉野の地では、立春が過ぎても) 吉野山には雪が降っておりまして。

かな条幅規定 【8月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

見越雪枝選書



よみ方 女郎花秋(あ支)の 野風(可せ)に(尔)う(憂)ち(知)な(奈)び(非)き(支)心
ひ(非)とつ(川)を(越)た(多)れ(連)に(二)よす(春)らむ(覧)

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

見越雪枝

女郎花秋^{をみなへあき}の^{のかぜ}野風
心ひとつをたれによすらむ^{こころ}

〔藤原時平「古今集」〕

女郎花が風に靡いて身を傾けているのを、だれかに心を寄せているものとして詠んだ歌。

2段書きの作例です。上段2行は行間を密に、下段は行間の揺れと響き合いを大切にしました。2行書きでも良いかと思えます。自身の個性を大切に。墨継ぎは「た」です。

漢字条幅規定 初段以上 【8月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船
（姑蘇城外の寒山寺、夜半の鐘声客船に到る）

姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船 【張継】

書体Ⅱ自由

漢字条幅規定 秀級以下 【8月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書

心同野鶴與塵遠 詩似冰壺見底清
（心は野鶴に同じく塵と遠く、詩は冰壺に似て底の清きを見る）

心同野鶴與塵遠 詩似冰壺見底清 【韋応物】

書体Ⅱ自由

習い方解説 (4)

種谷萬城

今月は、西周金文を参考にしました。篆書には、甲骨文、金文、大篆、小篆、印篆等の書体があります。篆書作品の創作では、書体の統一が必要です。篆書の字典で、校字しましょう。篆書の字典は多くありますが『標準篆刻篆書字典』（牛運樞十編・二玄社）、『綜合篆書大字典』（綿引滔天編・二玄社）等がお勧めです。また、『字通』（白川静著・平凡社）等で文字の成り立ちを調べることも大切です。

※タテ形式に限る

習い方解説 (4)

大平邑峰

七言一句を素材にしての作品作りです。楮遂良の哀冊をイメージして書作しました。哀冊の書線には豊かさや温かみを感じます。筆の開閉が自然で品位の高さと味わいの深さに惹かれます。楮遂良の枯樹賦と比較しながら哀冊を臨書した後、比較的ゆっくりと筆を運び、その風合いを楽しみました。

磨かれて身につけられた言葉
それだけが人を真に彩る
飾り物はみな壊れろがまとった
言葉は常に人を美しく飾る
バルトリハリ『処世百頌』より 美泉書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (1)

川村 美泉

古代インドの詩人・哲学者バルトリハリが、処世術や道徳、賢さについて約110の詩節で綴った格言、詩集の一つです。人間がどのように生きるべきか、倫理、寛、勇気、真の知恵などについての箴言が含まれています。

このごろ、言葉の美しさ、特に日本語の美しさについて考えます。自然も含めた環境の変化や価値観の変化。変動の時代である今だからこそ言葉や文字を大切に扱っていききたいと思います。

5〜7世紀ごろに生きたといわれるバルトリハリの言葉ですが、21世紀に生きる私達にも共感できる言葉です。

やさしい行書を使って書いていますので、漢字とひらがなの調和を考えながら、練習を重ねてください。

磨かれて身につけられた言葉
それだけが人を真に彩る
飾り物はみな壊れるがまとった
言葉は常に人を美しく飾る
バルトリハリ『処世百頌』より ○○書

クラス会のお誘いうれしく
拝見致しました。今回は、私の
地元のホテルで開催されるとの
こと、喜んで参加致します。
お手伝いできることがありましたら、
何なりとお申し付けください。

岩垣若翠

クラス会のお誘いうれしく／拝見致しました。今回は、私の／地元のホテルで開催されるとの／
こと、喜んで参加致します。／お手伝いできることがありましたら、／何なりとお申し付けください。／氏名

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小。原寸にするには117%拡大)

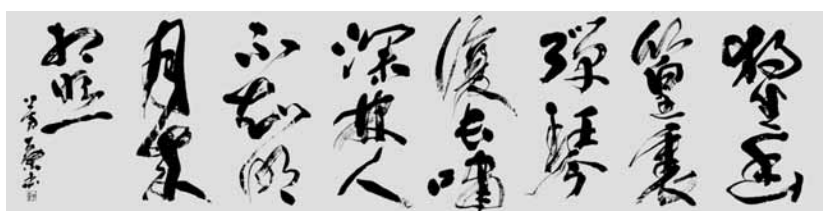
- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る



かな条幅部 二段 西山 葵龍
確かな用筆にしなやかなリズムで清々しい品格が薫る。青墨か、ソフトな墨色も相まって優雅な趣き／

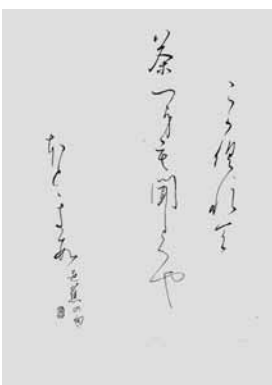
◎かな条幅部総評 書き始めが漢語や漢字の時は、字の大きさや墨量には特に気をつけたい。大き過ぎて調和に欠いた作が多かった。(洋子評)

かな部 師範 戸部 藤風
無理のない連綿で行間の余白と上手く響き合い、一字一字のびやかで美しく、品位を感じる。
◎かな部総評 潤渇の変化、余白の変化に気をつけながら強い線条で動きの大きな作品が多く、好感を持った。
(峰子評)



漢字条幅部 師範 新行内芳蘭
練度の高い筆線。巧みに太細の変化を交えて運筆され潤渇の変化美しく、力量の高さが窺える作品。

◎漢字条幅部総評 上級は横形式で様々な構成の作品、下級は日頃の古典学習の成果が表れた作品が見られた。(菜扇評)



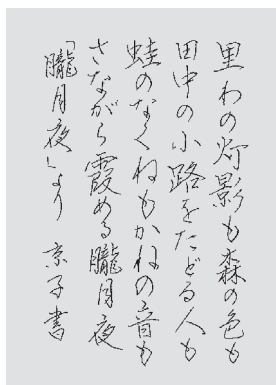
現代詩文書部 特選 尾嶋 春蘭
潤渇、文字の大小の変化で、余白が明るく爽やかな風が感じられる良い作品になりました。
◎現代詩文書部総評 線質や構成に魅力があり、さらに墨色の冴え等個性を発揮して下さい。(播磨評)



漢字部 師範 田村美和子
大変、しっかりとした筆致で伸び伸びと書いている。さらに結体の佳さが目を引いた。秀作。
◎漢字部総評 確実性の高い作品が多く見られた。各人の個性を大切に自由に書かれた作品も多く、見ごたえがあった。
(大峰評)



前衛書部 特選 中村 一零
巧みな用筆で動きとリズムを出し、線質の変化や飛沫など効果的に表現され心に響くものがある。
◎前衛書部総評 意欲的な作品が多く見られ、前進していることを感じた。
(蓮紅評)



ペン字部 師範 河原木京子
大らかで明るく丁寧。この「朧月夜」の叙情を温雅に優しく表現した、心魅かれる作品です。
◎ペン字部総評 漢字かなのメリハリのある作品が多かった。行頭を揃えることによって、さらに全体が引き締まって見えます。(孝子評)

選評 佐藤希雲

◎実用書部総評

にじむ紙、墨を吸いすぎる紙は避けたい。穂先の位置が線の中で行方不明になっている作が多かった。穂先を効かせた作は見応えがある。
(希雲評)

特選 相澤敦子
運筆に迷いなく堂々と書き切った快作。署名のリズムも良い。

七十二候について
中国古代の季節の区分。礼記に、五日を一候として七十二候、三候を一気として二十四気、六候を一月として十二月とするとある。
相澤敦子

今月の注目作
新村翠芳

七十二候について
中国古代の季節の区分。礼記に、五日を一候として七十二候、三候を一気として二十四気、六候を一月として十二月とするとある。
新村翠芳

特選 岩上郁子
墨色・墨量も適切で、さわやかな細線が見事。気脈もよく通じる。

七十二候について
中国古代の季節の区分。礼記に、五日を一候として七十二候、三候を一気として二十四気、六候を一月として十二月とするとある。
岩上郁子

六朝風で面白い。さらに精度をあげたい。

特選	紅瑤 相澤敦子	高真 岩上郁子	五月 小野裕美	大雲 鷺山美梢	八街 村上佳月	秀作 (60書)	一心 石森博子	高真 梅山久子	紅瑤 加藤翠陽	紅瑤 佐藤成美	白珠 須田香舟	一閃 弘内葵龍	もく 本郷谷恵	黎明 松田綾香	宗苑 茂木絢水	佳作 (60書)	竹美 秋龍華	八街 井ノ口春峰	たか 浮須康彰	澄春 及川明美	泰香 加瀬夏峰	泰香 小木曾泰香
芳蘭	小久保蘭	多賀 齋藤松苑	常盤 水津恵風	有秋 高橋千代子	八街 新田史瑩	紅月 林田幹子	華仙 柳瀬瑠華	入選 (60書)	平成 有島智水	黎明 井口泰助	福山 池崎和美	芳蘭 石橋宏美	玉州 角張芳蘭	樹原 葛恵美	紅瑤 金井みどり	帝塚 神田弘子	華仙 菊地恵水	津田 岸地恵水	深大 北爪裕子	梓江 久下香奈	堂光 佐藤光華	堂光 佐藤光華
書泉	江龍	千葉 鈴木美津子	耕雪 千本松和子	玉州 高橋幸苑	やま 竹清淑子	立精 田玉哲子	耕雪 津田白花	紅瑤 外山文恵	深大 永井順子	柳景 永井伯景	書泉 橋浦紫江	玉州 橋浦紫江	玉州 橋浦紫江	玉州 橋浦紫江	墨遊 林美奈子	常盤 平野宏雲	椿翠 藤本尚子	明香 安嶋真砂子	大雲 渡辺妙華	大雲 渡辺妙華	大雲 渡辺妙華	大雲 渡辺妙華

(選外374名氏名略)

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



正音美 富羽子 美紀翠 琢翠 涌信翠 有津龍 葵龍晶 千晶 表情豊かな筆勢が冴える 大胆な構成が線質と融合 瞬発力が冴え渡る力作 柔らかな滲みと表現一致 リズミカルな線に表情あり

選評 太田 蓮 紅

彩紅 紫苑 琴燐 悦子 秀扇 充実した筆力で動き佳 柔らかな潤渾安定感あり 絶妙な均衡保ち構成良 幻想的な情景と筆力一致 細線を効かし構成輝く

悦真子 間美 雄一 独特の造形不思議な魅力 滲みや余白など安定感あり 「河」の字形すばらしい 風情ある3行目が良い 細線が空間に響き輝く

梨彩秀 雅悠 溪翠 玖苑 茵切れの良い筆致、佳作 インパクトのある造形良し 細筆を自在に使い見事 連綿線の動き柔らかで佳 芭蕉の句と線質構成の妙

美素陽彩花 梢朴子苑 淡墨の美、品あり美しい 「闇」の斬新さ目を引く 淡墨と構成、リズム良い 躍動的な線で揺るぎない 線質とリズム感詩情あり

選評 山 崎 掃 雪

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

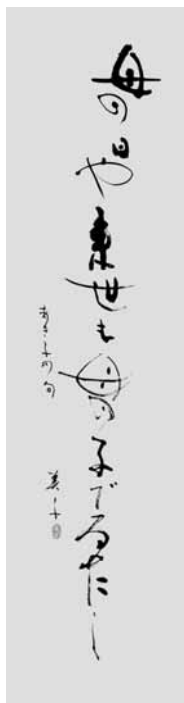
選評 下谷洋子 田村鄭雲 西川翠嵐 倉林紅瑤

小品の部

現代詩文書 (千桜)

金子美千

「母の日」



金子美千書

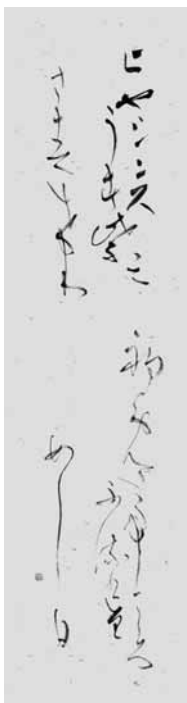
135×35cm

◆母を思う優しい気持が美しい細線から響いてくる。縦に揺れながら落ちていく流れが工夫され趣きがある。落款の位置も余裕があり、好感が持てる。(鄭雲評)

かな (A I)

清水由紀子

「ヒヤシンス」



清水由紀子書

135×35cm

◆カタカナの入った歌だ。が巧くかなと調和させた。上段のバランスは習熟しているが、下段は縦画の扱いに一工夫欲しい。構成も上段との関わりを考えた。(洋子評)

前衛書 (大拙)

佐藤陽子

「五月の風」



佐藤陽子書

138×35cm

◆半切上下の2部構成。上下の造形のバランスも冴え潤渇の変化が紙面に軽快なリズム感を与え、爽やかな作品となった。墨色は一考を要す。(紅瑤評)

漢字 (翠湖)

田中翠恵

「七言二句」



田中翠恵書

135×35cm

◆顔真卿の書を思い起こさせる重厚な線質。じっくりと筆を置いた出だし「碧」の潤いとその3字下の「翻」の渴筆・躍動の対比が楽しい作。(翠嵐評)

〈小品の部〉

創作の部(37点)

漢字 9点

かな 3点

現代 16点

篆刻 1点

前衛 8点

臨書の部(45点)

漢字 42点

かな 3点

総出品点数

82点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

粹仙 藤井 龍仙

麗澤 対馬 恵萩

〔現代詩〕

植松 梅田 紅雨

苑柚 若見 苑柚

蒼風 笹木 蒼風

伊呂 齋藤 久子

〔前衛〕

蓮紅 大友 紅蓉

〔篆刻〕

蒼原 庄司 櫻空

〔臨書の部〕

〔漢字〕

千葉 竹浪 叙舟

華祥 小泉 叙潤

千葉 安藤 叙孝

紅瑤 原島 春汀

八街 宮原 小樹

若葉 工藤 山房

堂光 佐藤 雅心

四枝 奥川 光輝

宗苑 茂木 麗流

青湖 北嶋 青湖

〔かな〕

菊月 新井 恵子

前衛書

(月華) 浅野 涌翠
「月と太陽」



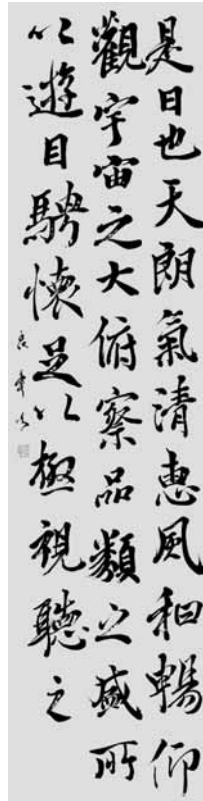
浅野 涌翠 書

90×90cm

◆3尺×3尺の二層紙に、長鋒筆と濃墨を駆使した若さ溢れる快作。空間処理も巧みで、中央部の細線鋭く、瞬発的に躍動する筆致が魅力的。
(紅瑤評)

臨書

(華祥) 玉 瀨 良 章
「蘭亭叙」



玉瀨良章 臨

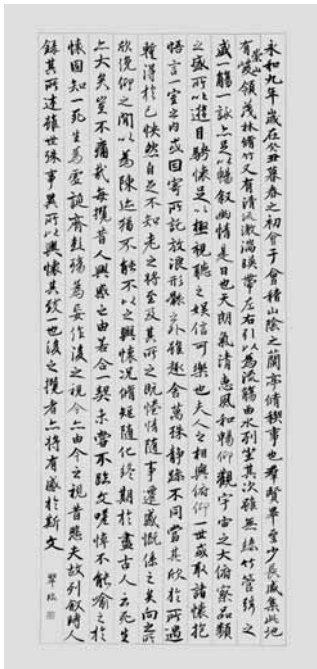
180×45cm

◆たいへんやわらかな羊毛筆に濃墨で丸みのある温かな線が紙面にしっくりとくい込んでいて落ちつきのある作品となりました。
(翠嵐評)

臨書

(紅瑤)

金井 みどり 「蘭亭叙」



135×66cm

金井 みどり 臨

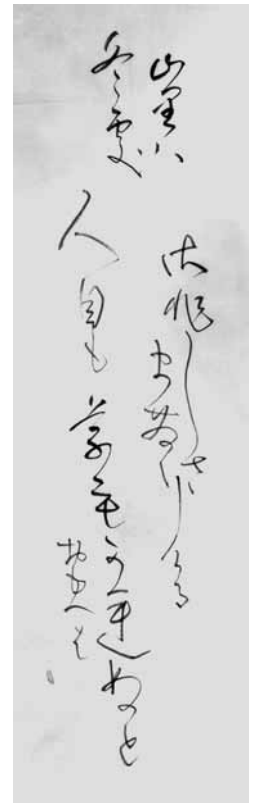
◆全紙に自ら枠を引き縦10行での蘭亭全臨、文字の大小、強弱をみごとに散りばめて全体に統一感を持たせた力量は流石です。
(翠嵐評)

大作の部

かな

(奥田)

三宅 直 美
「山里は」

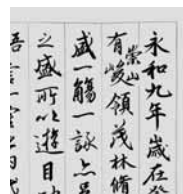


175×53cm

三宅 直 美 書

◆題名のように歌の一部を書いた一首書きが面白い。力強くリズムに乗って流麗だが、しやりなど単純な字が単調で寂しい。
(洋子評)

部分拡大



〈大作の部〉

創作の部(46点)

漢字 2点

かな 8点

現代 12点

前衛 24点

臨書の部(14点)

漢字 14点

かな 0点

総出品点数 60点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

翠柳 平間 翠里

〔かな〕

奥田 小林 溪姫

水室 清水 蘭舟

〔現代詩〕

翠柳 加藤 紫翠

八戸 市川 紫葉

白珠 西山 葵龍

〔前衛〕

容洲 阿部 邑里

蒼原 佐藤 弘山

紅珠 川田 弘子

紅珠 石澤 徳子

篤信 三浦 朱鳳

蓮紅 八重 櫻松

月華 三塚 倫果

一弦 工藤 和香

〔臨書の部〕

〔漢字〕

千葉 佐藤 桂香

素朴 坂本 素朴

千葉 平野 素朴

紅瑤 相澤 敦子

大雲 舟實 恵美

漢字研究部
(蘭亭叙)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品

天朗
氣清

池田雄子

漢字研究部 特選 池田雄子

教科書にも出てくる「天朗氣清」を当たり前に、緊張することなく、上手に書こうとすることなく、のびやかにおおらかに筆を運んでいることを評価させていただきました。字形もしっかり特徴を捉えられました。

◎漢字研究部総評

いつも1〜2点、鉛筆で塗っている作品があります。少ないので気にもしてなかったの

ですが、今回も、字形は整って上手いですが、上位50人に選ばうとして「あれ?鉛筆...」と、気づきました。何のための臨書?! 1千点を超える作品の中は様々です。上位100名を選ぶ段階では、どの作品もよく鍛錬を積んでいることが推し量れます。

「落款がいい!」方は、何百回も何千回も書いて作品が見劣りしないようにしているとお聞きしたことがあります。

足以上極
視聽之

足以上極
視聽之

天朗氣清惠
風和暢仰觀
宇宙之大

仰觀宇宙之
大俯察品類
之盛所以遊

也是
天日

天朗
氣清

菜紅藤花雅清
圓霞瓊香秋麗

天朗氣清惠
風和暢仰觀
宇宙之大

惠風
和暢

是日也
天朗氣

俯察品
類之盛

遊目
騁懷

是日也天朗氣清惠風
和暢仰觀宇宙之大俯
察品類之盛所以遊目
騁懷足以極視聽之娛
信可樂也夫人懷臨

泰康清裕里
香彰耀子佳

是日也天朗氣清惠風和暢
仰觀宇宙之大俯察品類
之盛所以遊目騁懷足以極
視聽之娛信可樂也夫人
之相與倫仰

是日也天朗氣清惠風和暢
仰觀宇宙之大俯察品類
之盛所以遊目騁懷足以極
視聽之娛信可樂也夫人
之相與倫仰

所以遊
目騁懷

之視
娛聽

天朗

天朗
氣清

雅舟藍千蘭美
悠楓水子子奈

俯察品
類之盛

俯察品
類之盛

天朗
氣清

是日也
天朗氣

天朗
氣清

俯察品
類之盛

珠悠白和育青
莉馬柳江嗣湖

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字30点・かな14点)

選評 後藤大峰・平川峰子

漢字秀逸作



西川 藤象



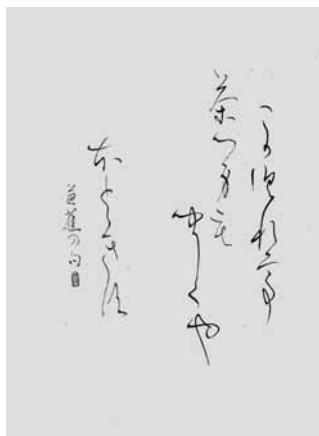
板橋 雅邦



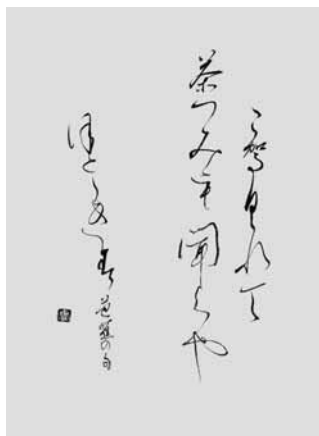
茂木 絢水



小川 白柳



神谷 雲卿



臼井 真理

〈次点・50音順〉

竹浪叙舟



筆の開閉が大変しっかりとした書き振りで線に奥深さを感じ取れる作品。墨色にも配慮し味わいあるものとなった。さらに精進、研鑽を積まれたい。

(大峰評)

かな秀逸作



佐藤一義

まん中の大きな余白が面白い。リズムある線條、特に縦がどれも同じにならないよう変化させている。気迫がこもった強さのある秀逸作。(峰子評)

〔2026秋季特別昇段級試験参考手本〕

漢字部

第二種

◇創作・楷書

暗飛螢
自照
書

暗飛螢自照（暗きに飛ぶ螢は自ら照す）

（杜甫）

漢字部

第三種

◇創作・行書

竹涼侵臥
内野月満
庭隅
書

竹涼侵臥内（竹涼臥内を侵し野月満庭隅に満つ）

（杜甫）

かな部

第二種

◇創作（和歌）

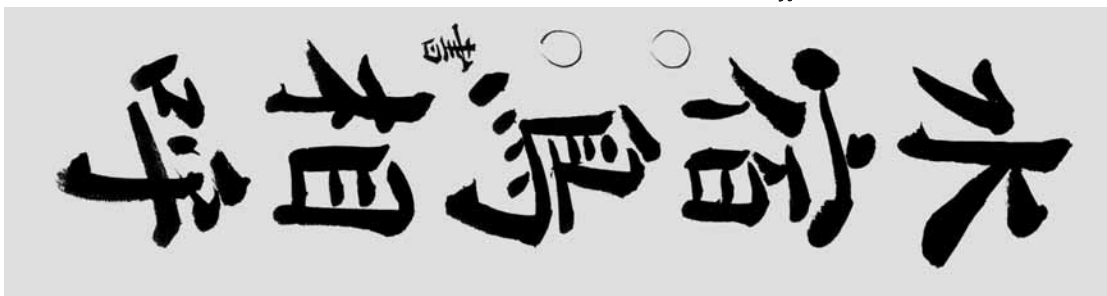
おもせで思ひに燃ゆる螢こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ
あはれなりけれ
口

おもせで思ひに燃ゆる螢こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ

（源重之）
よみ方 音（おも）もせで思（おも）ひ（目）に耳（燃）る（螢）ゆる（螢）（本多）る（こそ）
（曾）鳴（那）く（久）虫（無）しよりも（毛）あは（者）れな（奈）り（利）け
（介）れ（連）

◇秋の特別昇段級試験の課題手本
（創作作品）を掲載しました。
参考にして下さい。

＜楷書＞



第一種 ◇創作（行書または楷書どちらか1枚）

漢字条幅部

＜行書＞



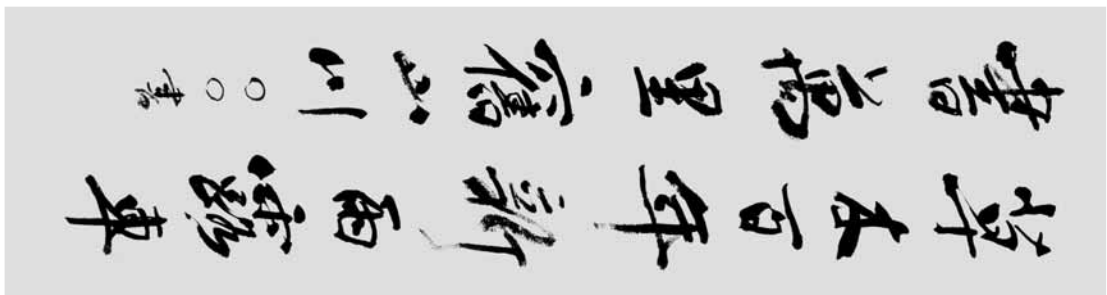
水宿鳥相呼（水に宿る鳥は相呼ぶ）

（杜甫）

第二種 ◇創作（行書）

水宿鳥相呼（水に宿る鳥は相呼ぶ）

（杜甫）



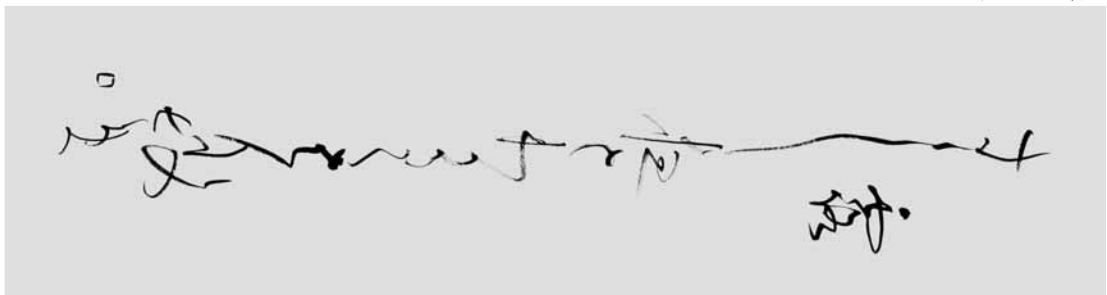
草木百年新雨露 車書萬里舊山川

（邵雍）

（草木百年新雨露 車書萬里舊山川）

かな条幅部

第一種 ◇創作（俳句）

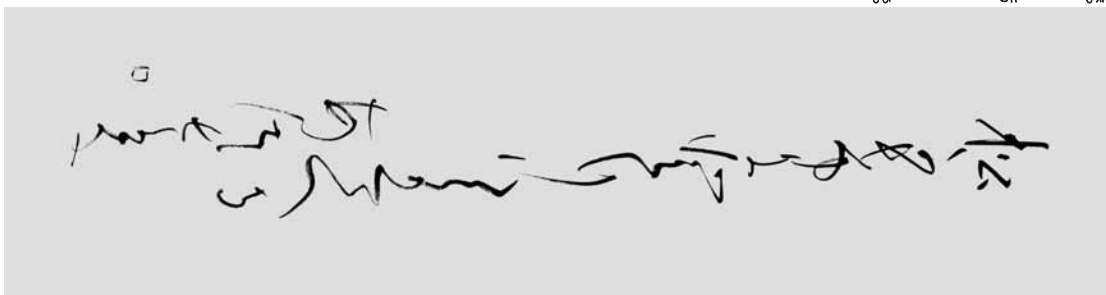


露涼（夜と別る花のさき）

（よみ方 露涼（さき）し夜と別（わ）る（へ）花（は）（き）（そ）（の）（さ）（き））

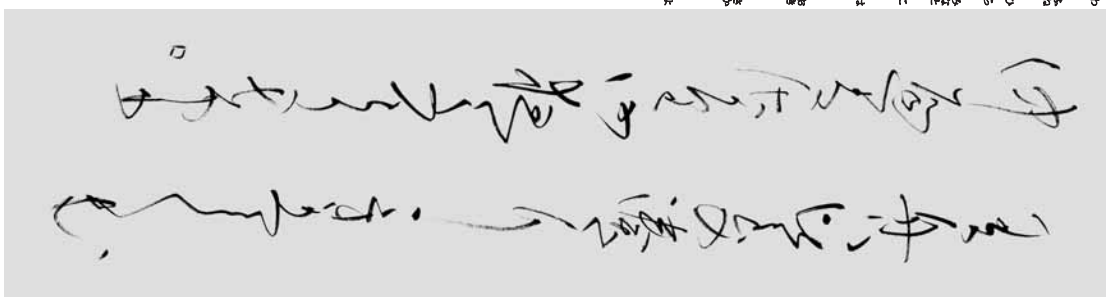
（石井露月）

第二種 ◇創作 (俳句)



松かげに鶯はらばくる雪ぞかな
 よみ方 松か(可)げ(春)に(不)鶯(鶯)は(へ)らば(鶯)くる雪(雪)ぞかな(可)な(春)
 (芥川龍之介)

◇創作 (和歌)



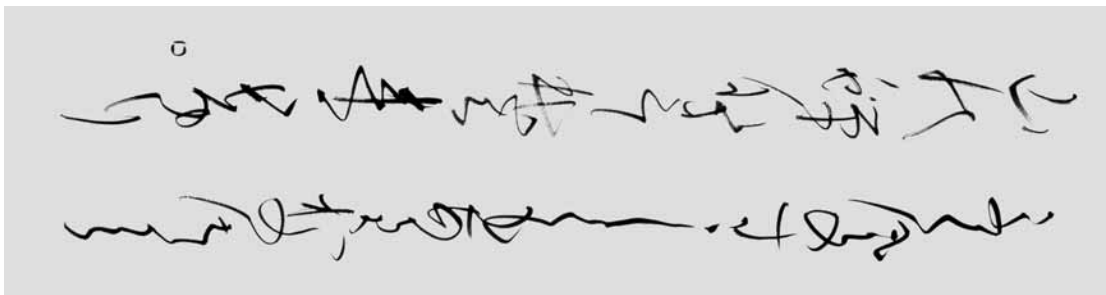
我が舟は比良の湊に濱ぞ泊てむ仲くは離りそ夜ふけにけり
 よみ方 我(我)主(主)が(可)舟(舟)は(へ)比良(比良)の湊(湊)に(耳)濱(濱)ぞ泊(泊)てむ仲(仲)くは離(離)りそ夜(夜)ふけ(ふ)にけ(可)り(利)
 (高市黒人)

第三種 ◇創作 (俳句)



旅寝して香わさ草の炊道哉
 よみ方 旅(旅)多(多)く寝(年)して香(香)わさ(香)草(草)の炊(炊)道(道)哉(哉)
 (河井玄来)

◇創作 (和歌) ……この歌に標題変更となりました。ご注意ください。



吹く風の涼しくもあるかなのづから山の嶺なきて秋は来にけり
 よみ方 吹(吹)く(可)風(風)の涼(涼)す(す)しくもあ(も)るか(可)な(可)のづ(づ)から山(山)の嶺(嶺)な(な)きて秋(秋)は来(来)に(に)け(可)り(利)
 (源実朝)

◇楷書

夜熱依然として午熱に同じ
門を開いて小立す月明の中
竹深く樹密なり虫鳴く処
時に微涼有り是れ風ならず
楊万里の詩
。 。 書

◇行書

夜熱依然として午熱に同じ
門を開いて小立す月明の中
竹深く樹密なり虫鳴く処
時に微涼有り是れ風ならず
楊万里の詩
。 。 書

◇草書

夜熱依然として午熱に同じ
門を開いて小立す月明の中
竹深く樹密なり虫鳴く処
時に微涼有り是れ風ならず
楊万里の詩
。 。 書

夜熱依然として午熱に同じ
門を開いて小立す月明の中
竹深く樹密なり虫鳴く処
時に微涼有り是れ風ならず
楊万里の詩 ○○書

(注)「月」の草書の別の例

月

- 第一種 楷書 (1枚)
- 第二種 楷・行 (計2枚)
- 第三種 楷・行・草 (計3枚)

※臨書作品は、6月号48～53ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

※作品締め切りは9月15日(火)です。

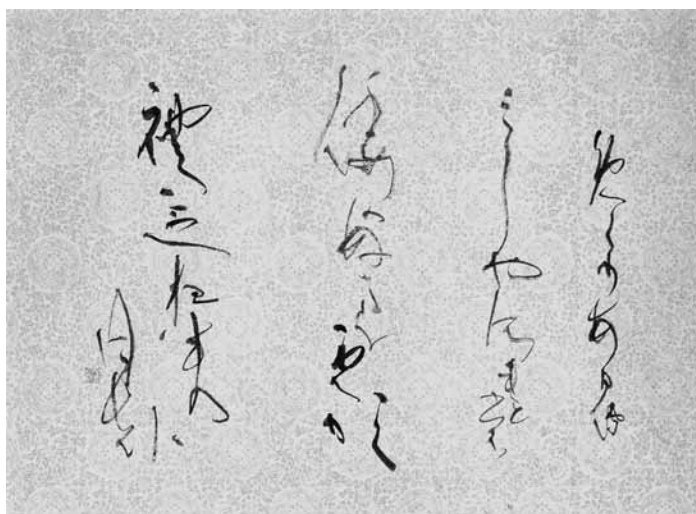
(編集部)

第54回 日本の書展

東京展（令和8年6月11日～21日）

会場 国立新美術館

下谷
洋子



免久利あ日傳三所達業能可万尔
めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に
雲隠れにし夜半の月哉（紫式部）

60×83cm

小竹
石雲



季節はいつだって愛のように新鮮（井奥行彦）76×70cm



石を枕に秋の風ゆく（種田山頭火）

辻元大雲

136×35cm



174×53cm

春風取花去 酬我以清陰 翳翳陂路靜 交交園屋深
牀敷每小息 杖履或幽尋 惟有北山鳥 經過遺好音（王安石）

名越蒼竹



120×90cm

醉

小林琴水

2026年
第40回 記念 書泉会展

ご高覧いただきたく、ご案内申し上げます
尚、ご芳志は、謹んでご辞退させていただきます

と き 2026年8月2日(日)～8月5日(水)
10:00～17:00 (最終日は16:00終了)

ところ 高崎シティギャラリー 第1展示室・予備室

遺墨 下谷 東雲
主宰 下谷 洋子

朝倉 春江	大崎 香織	久保由梨奈	宮崎 英明	萩原 洋子
大辻多希子	熊谷 翔	小暮 真紀	官渕 直子	原 裕子
木村 東舟	菅原 澤花	小林 緑	矢口 登江	平山 芳子
藤山 初美	高井 順子	近藤テル子	山村 都子	藤田 祐子
松村くに子	高橋 佳子	境野 和子	山本久美子	細野 容子
田子 白楓	高山 裕子	桜井 弘子	渡辺さゆり	本多 和枝
京 絹子	津久井静江	佐崎さゆり	青木 玉枝	本間みち子
九條 純代	利村 都子	佐藤 弘子	新谷 恵子	牧口 絹代
	富澤 白雲	佐藤 泰子	伊藤 幸子	松村 邦子
秋山 久枝	中里 智香	清水 節子	井上 清泉	持本 良枝
天海 矩子	鍋島 弘子	杉田 恵雪	印東 正寛	山本 陽子
稲村由宇記	原澤 典子	高山 希雪	上原 聖子	
大木 優子	武藤 房枝	高山れい子	生方 久子	大作 律子
小林 純風		塚本ちえ子	梅山登志江	飯島 万丈
瀧寄 光子	赤川 薫	徳江 明美	小澤 陽子	木村 関泉
清水喜代子	新井 恵子	徳江 淳子	叶野 洋子	早部 朋
鈴木せつ子	飯島トミ子	中澤フクエ	北瓜美沙希	
須田 清子	五十嵐るり子	中村シグ子	木村 幸代	社中選抜
仙場美枝子	磯邊美知子	根本 雅子	黒沢安都美	大崎友里松
善養寺紅風	井上 智美	萩原 綾子	小坂橋理恵	小峰美加子
田村 玲子	入沢由美子	濱田 陽一	齋藤 功	関口やよえ
徳永美恵子	色川 穂麗	平山さだ子	坂本あや子	田加寿美子
都丸みどり	岩田佳代子	藤生由紀子	鹿田世志江	都丸 花風
野村 知	岩田 博子	深津 正子	神宮 玉枝	逸見 玲子
羽田 招佳	関部 裕子	里野 栄花	高草木京子	真下美佐代
治田 芳江	岡本 凉子	前田 美子	高橋 信乃	渡辺 和音
福田 令子	小澤 佳世	増子 好子	塚越香津美	
松本 睦子	小野 正子	折原 成実	野尻 敏恵	
渡辺 星野	加納ひろ子		野辺 延子	



第65回
白扇書道会展

併催
第65回全国学生書道展
原拓書道史展

会期 2026年8月11日(火・祝)～8月16日(日)

会場 千葉県立美術館
観覧時間▶AM9:00～PM4:30 (入場無料)
千葉県中央区中央道1・10・1 TEL.043・242・8311

一般部 役員作品・一般公募作品
学生部 第65回全国学生書道展
中国の部 原拓書道史展

主催 白扇書道会
第65回 白扇書道会展事務局
〒260-0042 千葉県中央区椿森1-18-4・901 緑台風城方
TEL・FAX.043・284・4281

後援 千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・(公社)全日本書道連盟
(公財)書道芸術院・毎日新聞社・千葉日報社

書展のご紹介について

。予告

後援申請書を書展会期2ヵ月前までに提出して下さい。

。報告 (訪問記)

400～450字程度(1行17字詰)
会場風景、作品写真等2枚まで

。写真の裏にキャプションを必ず明記して下さい。

。書道芸術院後援の展覧会に限らせていただきます。お知らせのあった書展のみ掲載いたします。

。訪問記掲載の場合、編集部まで事前にご連絡下さい。

編集部

後援申請について

後援申請をされる場合、書道芸術院

所定の申請用紙でお願いします。

事務所にご連絡いただければお送りいたします。

いたします。

。代表の方の団体、社中における役職名を明記して下さい。

第77回 毎日書道展

主催：毎日書道会・毎日新聞社

●東京展

○国立新美術館

※毎週火曜は休館・水曜は午後1時開場

前期(I) 7月8日(水)～7月13日(月)

前期(II) 7月15日(水)～7月20日(月)

後期(I) 7月22日(水)～7月27日(月)

後期(II) 7月29日(水)～8月2日(日)

○東京都美術館＝7月18日(土)～7月24日(金)

※21日(火)は休館日

●関西展

京都市京セラ美術館

みやこめっせ第2展示場

8月26日(水)～8月30日(日)

●東海展

愛知県美術館ギャラリー

8月25日(火)～8月30日(日)

●中国展

広島県立美術館

8月25日(火)～8月30日(日)

●四国展

愛媛県美術館

8月19日(水)～8月23日(日)

●東北仙台展

せんだいメディアテーク

9月11日(金)～9月16日(水)

●北海道展

札幌市民ギャラリー

大丸藤井セントラル スカイホール

9月23日(水)～9月27日(日)

●東北山形展

山形美術館

10月28日(水)～11月1日(日)

●九州展

大分県立美術館

11月10日(火)～11月15日(日)

書道芸術院 第77回毎日書道展出品者懇親会

第77回毎日書道展出品者懇親会を下記のとおり開催いたします。
万障おくり合わせのうえ多数ご出席くださいますようお願いいたします。

日 時 令和8年7月19日(日) 午後5時開宴

会 場 芝パークホテル

〒105-0011 東京都港区芝公園1-5-10 (TEL 03-3433-4141)

会 費 12,000円(当日の参加申し込みはできません) ※U23は半額

申込方法 書道芸術院事務局にご連絡ください。

申込〆切＝令和8年7月3日(金) ※お忘れの方は大至急お申し込み願います。

第十五回 比田井天来・小琴顕彰

佐久全国臨書展



TENRAI



SHOUKIN

「現代の書」を

原点から問い直す

作品募集

応募締切 9月2日(水)

- 審査員は会派を超えて多方面から結集
- 入賞作品は佐久市立近代美術館に展示

2026

11/21[土]~12/13[日]

入場無料 開館時間 / 9:30~17:00

休館日 / 11月24日(火)、11月30日(月)、12月3日(木)、12月7日(月)

展示会場

佐久市立近代美術館 油井一二記念館

〒384-0011 長野県佐久市猿久保35-5 TEL.0267-67-1055 FAX.0267-67-1068

お問い合わせ・資料請求先

佐久市立天来記念館

〒384-2202 長野県佐久市望月305-2 TEL.0267-53-4158 (月・火曜日、祝日の翌日は休館)

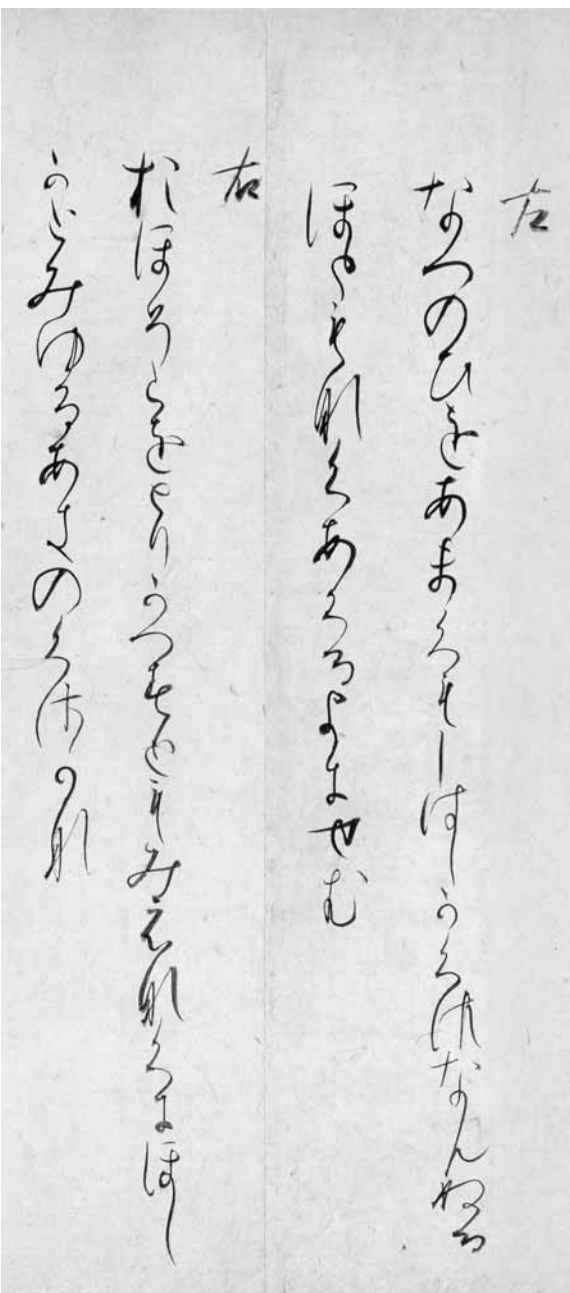
- 主催 佐久市 佐久市教育委員会 佐久全国臨書展実行委員会
- 共催 佐久市書道連盟 天来の会 NPO法人未来工房もちづき
- 後援 信濃毎日新聞社 公益財団法人八十二文化財団 株式会社天来書院 株式会社二玄社 有限会社書芸文化新社 株式会社芸術新聞社 株式会社美術新聞社 株式会社美術年鑑社 株式会社匠出版
- 協賛 株式会社一休園 株式会社玉川堂 株式会社慶花堂 ゴールデン文具株式会社 有限会社誠心堂書店 清秘蔵 株式会社ならや本舗 株式会社宝研堂 筆匠株式会社仿古堂 株式会社墨運堂 山口文林堂

古筆鑑賞

269

寛平御時后宮歌合 (伝 宗尊親王筆) ②

〈よみ〉左／なつのひをあまぐもし^{久毛}しかく^{可久佐}さなむぬる^无／ほど^毛もなく^久あくる^久よに^尔せむ／右／おほ^於ぞら^曾をとり^可かへ^奉すとも^毛みえ^久なく^尔に^久ほし^可
／かとみ^可ゆる^久あき^支のく^可さ^可かな^那



(掲載図版・60%に縮小)

古典鑑賞

495

礼器碑 (後漢156年) ②



(掲載図版・55%に縮小)

居魯親里。并
官聖妃。在安
樂里。聖族之

特別昇段級試験

一、しめきり日 **9月15日(火)**

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字 一種、二種、三種
かな 一種、二種
漢字条幅 一種、二種
かな条幅 一種、二種、三種
ペン字 一種、二種、三種
かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種

現段級が特級、10級、新規

・第二種

現段級が初段、3級

(4、10級の方は受験できない)

・第三種

現段級が準師範、秀級

(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、6月号48、53ページの写真掲載の中から(指定文字数)を臨書。

漢字部

半紙、たて長に使用

第一種(1枚)

楷 臨書 高貞碑 (掲載部分から5文字を臨書)

第二種(楷・行 計2枚)

楷 創作 暗飛螢自照 (杜甫)

(暗きに飛ぶ螢は自ら照す)

行 臨書 集字聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

第三種(楷・行・草 計3枚)

楷 臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から細字24文字を臨書)

行 創作 竹涼、侵臥内

野月、滿庭隅 (杜甫)

草 臨書 十七帖

(掲載部分から6文字を臨書)

かな部

半紙、たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。

・かな部創作・臨書とともに落款は印のみ可。

・かな・漢字の変更自由。

第一種(臨 1枚)

臨書 高野切第三種

(半紙1枚に2首を臨書)

第二種(臨・創 計2枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙1枚に全てを臨書)

創作 音もせで思ひに燃ゆる螢こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ

(源重之)

漢字条幅部

小画仙紙半切、たて長に使用

第一種(1枚)

(楷または行)

創作 水宿鳥相呼

(水に宿る鳥は相呼ぶ)

第二種(楷・行 計2枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (掲載部分から14文字を臨書)

行 創作 草木百年新雨露

車書萬里舊山川

(邵雍)

(草木百年新雨露、車書萬里旧山川)

かな条幅部

創作は小画仙紙半切をたて長に使用(料紙可)
臨書は半紙を横長に使用

・かな条幅部の創作・臨書の落款は印のみ可。

・創作は、かな・漢字の変更自由。

第一種(創 1枚)

創作 露涼し夜と別るる花のさま

(石井露月)

第二種(創 計2枚)

創作 松かげに鶏はらばへる暑さかな

(芥川龍之介)

創作 我が舟は比良の湊に漕ぎ泊てむ

沖へな離りさ夜ふけにけり

(高市黒人)

第三種(臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙横1枚に全てを臨書)

創作 旅寝して香わろき草の蚊遣哉

(向井去来)

創作 吹く風の涼しくもあるかのつから

山の蟬なきて秋は来にけり

(源実朝)

ペン字部

はがきの大きさ(48×10)白紙、たて長に使用。黒インク使用。

夜熱依然として午熱に同じ

門を開いて小立す月明の中

竹深く樹密なり虫鳴く処

時に微涼有り是れ風ならず

楊万里の詩 ○○書

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書、臨書は○○臨と書く。

・ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみ可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇納入は昇段級試験用振替口座、または現金書留でお願いします。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、9月号(785号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりとする。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

5 受験申込み締切は8月20日(木)

・申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7

東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

書道芸術編集部特別昇段級試験係

応募書類は9月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

5

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみ可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反

作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…

段位は漢数字 初、二、三…

で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	段級位	用紙	書体・内容
字	初段以上	半紙	創作(書体自由)
漢	秀級以下	半紙	創作(楷書)
な	初段以上	半紙	創作
か	秀級以下	半紙	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創作(書体自由)
かな条幅	10級	半切	創作
ペン字	10級	半切	創作

●かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●掲載部分以外の箇所は不可。
●かな研究部門は料紙使用可。
●料紙貼りつけ可。

●自由部(段・級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

○用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ 24.5×16.5 cm、
B5コピー用紙 26×18.1 cm

も可。

○課題 掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

●大作または小品のどちらかに1点出品する。

●詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査会員の部について

●「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみの出品できる部を設ける。

●バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

●通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

1か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和八年六月二十五日印刷
令和八年七月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子

発行人 株式会社リンクス

印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
電話(03)3862-1195 4
東神田プラザビル3階

FAX(03)3862-1195 7
振替 001501411350058

http://www.lincs.co.jp/shogi/